































法華經曼荼羅絵図の奉安

一三二六年(嘉慶元年)新湊市放生津の海中より全十二幅(縦二・五メートル、横一・三メートル)の法華經曼荼羅絵図が出現、当山の開山である日頼がこれと絵解し、それによつて三二八年(嘉慶三年)当山の靈室となる。

一四九七年(明応六年)第二回の全幅表装修復を行ふ。一六六〇年(万治三年)越中富山藩主前田利次公より修復の申し出があり第二回の表装修復を行ひ十三年間を要して完成する。

一九〇〇年(明治三十三年)四月七日、本県では最初の国宝に指定される。しかし、一九五〇年(昭和二十五年)国宝から国指定重要文化財に変更される。

一九六二年(昭和三十七年)第三回目の全幅修復に着手する。一九六六年(昭和四十一年)修復事業を完成する。

これと記念して一九六七年(昭和四十二年)収蔵庫及び拝観所を竣工する。





飛驒名匠の作 鐘楼堂

一八三一年（天保二年）当山二十六世
日岸代の造営でその巧緻を極めた大彫刻
美と高さ十六メートル余りにわたる楼全
体の均整のとれた偉容は他に類を見ない。
古人の伝えに四方四頭の龍が深夜に付
近を飛遊し、田畑の農作物を荒すことか
ら止むなく龍の眼に五寸釘を打ったとい
う。

梵鐘は、第二次大戦時（昭和十九年）
に供出させられ、一時鐘のない状態が続
いたが一九四八年（昭和二十三年）一月
に再鋳して取り付け今日に至っている。
この鐘楼堂は、すべて当時の篤志家であ
った西谷屋（金子一族）の寄進によるも
のである。















































































































